

お世個別と目をつなぐ人材国際育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		・大田区人権教育研究協力校として、英語やコミュニケーション能力の向上を図り、互いに尊重し合う心の教育と課題解決に向けて行動する力を育てる。	4:	A	【取組】 ・外国語専科が配属され、児童が楽しくコミュニケーションを図れるような実践を重ねた。チーム入二の人材を教材作成や授業補助を取り入れることができた。 ・大田区人権教育研究協力校として「いじめ撲滅宣言」「平和学習」「同和問題」「地域と考える人権展」などを実施した。人権展には、保幼の参加を2園に増やすことができ、地域でともに交流し取り組むことができた。保護者の理解が深まり人権教育の活動が浸透している。 ・人権の取組 いじめ撲滅宣言集会 道徳地区公開講座(いじめ・命・人権) オリパラアスリートの方の講演会 全盲プロフルート奏者演奏会 人権の花 【改善策】 ・英語→チーム入二を活用した教材作成や授業補助を行い、授業改善を図る。 ・相手を尊重する言葉遣いについては、学校だけの課題ではなく、家庭、地域全体で継続的に呼び掛けるなど取り組んでいく。(学校便りや各種お便り、行事などで啓発していく)	A	11	・人権についての取組はとても分かりやすく、地域を巻き込んで効果的だった。 ・「国際都市 おおた」を担う人材育成として、外国語指導教員による語学教育は必要不可欠と思う。コミュニケーション能力の向上はもとより、外国籍児童も学が入二小としても、人権教育にも遡及しうと思う。「ものづくりのおおた」として地域の特色とともに、歴史を学ばせることも必要と考えるので、体験を通して児童に伝えてほしい。 ・今年度もたくさんの取り組みをしたと感じている。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:			B	2	・「一日一回英語で会話する」など、易しいことを継続して実施することがいいと思う。 ・地域と考える人権展に代表される、人権教育教育研究協力校としての活動は長い歴史を重ね、入二小に定着しており、こどもたちに人権意識が育ってきていると思う。今後も継続してほしいと思う。 ・相手を尊重する言葉遣いについて、家庭(親)での日常の会話等がかなり影響していると思う。保護者向けの講演等を開催してみてもどうだろうか。
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:			C	0	・人権に関すること、いじめに関することは熱心に取り組んでいたと感じる。 ・外国語は小学生くらいの時期が一番学びができると思う。座学より会話を中心とした、実際に外国語とかかわることを増やしてコミュニケーションを大切にしてほしいと思う。
						1:			D	0	
た一個のひと目と基礎3つが個性と能力を伸ばす	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		・豊かな心の教育を行う。楽しく学ぶことで基礎・基本の学力の育成を図る。健やかな体の育成と食育を行う。これらの学びを、保幼小連携や小中一貫教育で行っていく。	4:	B	【取組】 ・学習効果測定の結果から児童の成果と課題を分析し、授業改善推進プランを作成して、授業に生かすようにした。 ・補習の内容は必要に応じて前年度の復習を適宜入れて基礎基本が確実に定着するようにした。 ・小中一貫教育では、「基本的な生活習慣の確立」を統一指導として取り組んだ。本校では、特に「挨拶指導」に重点をおき、その成果が現れている。 ・学習支援が必要な児童については、定期的に校内委員会を開き、全教職員で対応してきた。次年度も継続する。 【改善策】 ・多様な学習スタイル(補習教室含め)に合わせるため、今後も継続して人材確保に取り組んでいく。 ・健康教育については、保健便りでの啓発や学校公開においても学びのある学習や行事などでも取り入れていく。 ・朝の活動をスムーズに行うために、来年度より登校時刻を8時10分～とする。 ・地域の方や来校者へも進んで挨拶ができるように、次年度も引き続き挨拶指導に取り組む。	A	10	・人を育てるためには、一定以上の人材が必要だが、人材確保が難しく今後も苦慮が予想される。 ・健やかな体の育成には、「おはよう」や「さようなら」。食育には、「いただきます」や「ごちそうさま」。豊かな心の醸成には、「ありがとう」や「ごめんなさい」。楽しく学ぶには、「失礼します」や「お疲れ様」。他者を敬う気持ちを育むために欠かせない普段使いの何気ない挨拶が身に付く学びを続けてほしいと思う。 ・全児童に対して、一人ひとりが個性と能力を発揮する教育は、道徳科を通して情操や道徳心の育成から他人を能力だけで決めつけない教育を行っていると思える。また習熟度に応じたクラス対応も、教員数からみても難しく困難とも思えるのに評価できる。幼保小の連携や小中一貫の視点に立った教育も、児童の個性と能力を把握する上でも必要であると思う。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:			B	3	・スピーチ大会は毎年、児童一人ひとりが自分の言葉で堂々と述べられている姿はとても素晴らしいと思う。 ・キャリア教育が充実していてゲストティーチャーや地域の方々も参加し、児童が生き生きと授業を受けていると思った。 ・ひまわり教室の開室によって、不登校児童の居場所が確保され改善した児童がいたのは、大きな成果である。 ・進めていると感じている。
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:			C	0	・よく運動し、よく食べ、「早寝早起き」を継続して推奨し続けてほしい。 ・補習においてかけ算、文章の読解力がかけている児童が多くみられる。楽しくかけ算を覚えさせ、読書を低学年から力を入れていくべきだと思う。 ・夏休みや休日などにボランティアで学校や地域の場所で勉強や相談会などを行ってもいいと思う。
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1:			D	0	

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	・校内研究やOJT研修を行い、ユニバーサルデザインを活用した指導力の向上を図り、児童に寄り添う教育活動を推進していく。また、チーム学校として組織的に取り組むことで、教師がゆとりをもって校務に取り組めるようにする。	4:	B	【取組】 ・ICTを活用し、具体物を示したり、算数科では、立体や作図などの指導で視覚的に分かりやすく活用したりして、理解力が高まる指導方法を行うことができた。 ・校内研究授業では国語と算数で「基礎・基本の学力を身に付けるための授業づくり」をテーマに2年間の研究を行ったことで、学習スタイルの定着と主体的に学ぶことで学力の向上へと繋げることができている、 【改善策】 ・ICTの活用については、教員の研修を定期的に行い、授業の中で効果的に活用できるようにする。また、こどもたちのタブレット故障時の対応がスムーズにいくように、担当や区と調整を図る。 ・教職員の共通理解を図るために、月に一度三部会や行事委員会を行い、それぞれの分掌の進捗状況や課題を確認する時間を取る。 ・働き方改革の一貫として、来年度より学校便りの中に学年からのお知らせを取り入れてお便りの一本化を図る。 ・教員の専門性を生かした、教科担任制の推進や補習教室の見直しを行う。	A	8	・改善策に期待する。特に働き方改革は教員確保に直結するため、丁寧かつスピーディーに行ってほしい。 ・学校力や教師力の向上のためにはOJTによる先輩教師から後輩教師へ経験を通して教育スキルを伝えていくのが最も有効に思う。人を育てることは本当に大切なことだと思う。また、ウィルビーイング教育を通して児童たちが精神的に落ち着いて幸せを感じるような学校生活を過ごせるように願っている。 ・「チーム入二」の存在が伝わり、活用することで教育環境が整ってきた。 ・ICTの活用により、効果的かが進められることを望みます。それにより、教員が児童に向き合う時間や、児童が教員へ話しかける機会が増えることを期待している。 ・先生方に教育に集中できるように環境づくりが大切だと思う。雑務が多いように見受けられるので、ICTを利用したり、雑務担当の方を採用するなどして学校運営のサポートをしてもらいたい。		
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		B	5
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。		3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。			2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。	1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。		C	0
											D	0
た 自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い し き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	・児童一人ひとりに向き合い、校内体制や教育環境を整えることで、児童の可能性を伸ばす指導に心がける。また、学校いじめ防止基本方針に沿って早期発見・早期対応に努め、スクールカウンセラーや外部機関と連携しながら児童に寄り添った支援を行っている。	4:	A	【取組】 ・道徳授業地区公開講座では、スクールカウンセラーによる講演会を行った。100名以上の保護者が子育てについての講演会に参加。 ・学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめや命に関する授業を行い、「いじめ撲滅宣言」を各学級で作成して児童集会で発表した。 ・生活指導夕会(毎週金曜日実施)では、いじめ問題や問題行動、不登校児童について情報共有を行った。必要に応じて、校内委員会(ケース会議)を実施した。 ・ひまわり教室を開設して、不登校児童の居場所づくりを行ったことで、不登校が改善された児童もいる。 【改善策】 ・サポートルームの利点を生かして、連携しながら、全教職員でこどもたちを見守る。問題行動については、必要に応じて校内委員会を設け、次年度も情報共有を図る。 ・不登校児童については、教員だけでなく、SC、SSWなど様々な外部関係機関と連携を継続して対応していく。 ・教室にいられない児童については、保護者と連携を取りながら、引き続きひまわりルームの活用等を行い不登校児童への様々なアプローチを図り居場所づくりに努める。	A	11	・ひまわり教室の重要性や成果を更にアピールし、不登校児童の居場所を広げて欲しい。 ・インクルーシブ教育システムによって、誰もが取り残されることなく、学校教育を受けられることは教師の努力やスクールカウンセラー等外部機関のサポートによるものと理解している。特に人権擁護と考えられる「いじめ」根絶の努力は評価できる。 ・不登校児童に対し、必ずどこかの機関とつなげている体制はすごいと思う。各機関の役割をフルに活用できていると思う。 ・学校を中心とした地域全体での見守り等ができています。 ・ひまわりルームの開設により不登校児童の居場所づくりを進めたことにより、不登校の改善につながったことはすばらしい成果だと思う。ぜひ継続してほしい。 ・「いじめ撲滅宣言」良いアイデアだと思う。引き続き行ってほしい。 ・いじめ対応はとてもすばらしいと思う。		
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。		3:80%以上100%未満の教員が回答した。			2:60%以上80%未満の教員が回答した。	1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。		B	2
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		C	0
											D	0

安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境なを 学習 く空 り間 と安 全・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	・コミュニティ・スクールとして地域学校協働本部「チーム入二」を活用したり、地域の特色を生かした学習内容を計画したりして教育環境を整える。	4:	A	【取組】 ・チーム入二会議を設けたことで、チーム入二と教職員の連携が図れるようになった。 ・緊急時には保護者配信メールを活用して情報を発信している。 ・学校運営協議会を年間を通して開催し、学校の状況や児童の様子を報告するとともに、助言をいただき、日々の教育活動に生かすことができている。 【改善策】 ・チーム入二を活用して更に各学年 等様々な授業や行事で関りを深めていけるように、改善を図りたい。 ・避難訓練については、改築のスケジュールも考慮しながら、年間指導計画を策定していく。防災教育については、各教科でも関連しながら学習していく。	A	11	・チーム入二の活用は目に見えて効果があったと思う。 ・人員確保が未だ大変なところもあるが、地域を巻き込んで大きくなってもらいたい。 ・「チーム入二」のさらなる拡充を図るならば、その周辺を取り巻く地域、自治会との連携をより深化する必要がある。お互いに高齢化(地域)や人材難(PTA)によるなり手不足解消の糸口が見つかるのではないだろうか。 ・デジタルを活用するICT環境の充実は目を見張るところであるが、次世代を担う児童にICT危機の操作、活用を推進してほしい。また、数年にわたる改築事業により、校舎・校庭・プールなど不便が多いところ、上手に種々工夫して児童に不便がないようにしているのは頭が下がる。コミュニティスクールとして、「チーム入二」の活動も年々活性化しており、保護者や近隣住民の学校教育参加を実感できる。
		③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3:			B	2	・チーム入二から配信される行事には、地域から沢山の方々に協力いただき、学校と地域が一体となって児童を支えていると思う。 ・改築中ならではの学習環境をポジティブにとらえて、変化する環境も学びの機会にしていきたい。
					2:			C		・学校運営協議会やチーム入二と学校との連携がスムーズにできるようになってきている。来年はさらに連携を密にして入二小の教育の充実に努めたい。
					1:			D		・学校(教職員)、運営協議会、チーム入二がもっと密に、共に行動していくことを願っている。 ・先生方にもICTをもっと活用していただきたい。 ・校舎改築中で工期ごとに場所が変わるので避難訓練を通じて、クラスや避難ルートが変わっても対応できるようにしていきたい。
学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家標 くユ庭フ リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	・学校、家庭、地域が連携・協働して、学校行事やPTA活動を行う。 ・地域学校協働本部「チーム入二」を活性化させ活用することで、地域社会全体で子どもたちを育成する。	4:	A	【取組】 ・学校の改築に伴い、児童の安全を確保するため通学路の変更を行った。登下校の際には、工事車両等の接触等を起こさないため、安全の見守りの人員を増員している。 【改善】 ・引き続き、校舎の建て替えによる事故等が起きないように、工事関係者との連携を図る。 ・学校行事については、保護者の関心も考えながら、今後も企画・実施をしていく。	A	12	・改築工事に伴う、子ども達の安全確保の懸念を一つ。出入りする工事関係車両について、多くの運転者の安全意識が希薄なために、現場が学校付近では遵守に見えても、学区域内に広がると危険度が増す。子ども達が登下校途中で巻き込まれる可能背もあるので、工事の現場責任者(現場監督クラス)より、安全遵守の履行徹底を各車両運転者へ常に呼びかける要請をして欲しい。 ・学校・家庭・地域の連携と協働による地域コミュニティの核としての学校は機能していると思うが、少数だとは思いますが、教育に対する家庭での保護者の理解や努力が少し不足している感がある。また、地域も高齢化などもあるが、学校に対する協力体制の強化も望みたい。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		3:			B	1	・改築中での対応は大変だと思いますが、その時その時のより良い対応方法を策定していただいていると思う。そのためにチーム入二や保護者に協力を仰ぐことは、良いコミュニケーションのきっかけになると考える。 ・学校が改築中であり、校舎内や学校の周りの安全に配慮されていることが感じられる。今後も安全を大切にしながら充実した学習活動や行事の工夫をお願いしたい。
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2:			C		・引き続き協力していきたい。 ・今後も「チーム入二」の活動を通じて学校と地域のつながりを大切にしてほしいと思う。情報発信を工夫して、地域の皆様や保護者に周知していくことが重要だと思う。
					1:			D		

